

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2691200154		
法人名	社会福祉法人悠仁福祉会		
事業所名	グループホーム鳳凰槇島(宿木)		
所在地	京都府宇治市槇島町大川原35-5		
自己評価作成日	平成27年6月5日	評価結果市町村受理日	平成27年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=2691200154-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku_ip/26/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyoVoCd=2691200154-00&amp;PrefCd=26&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口町上ル梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成27年7月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

思い出の場や本人がいま行きたいと思う所を聞き(弘法の滝、銭湯、夜景、床屋、喫茶店)付き添い社会とのつながりが切れないよう支援している。個々にあった生活が支援できるよう趣味や余暇活動をケアプランに取り入れ取り組みややりがいを見つける関りが出来ている。在宅で生活していた頃に習慣になっている事を取り入れグループホームでの生活の中でも継続して行えるように力を入れている。共同生活の場では家庭菜園を行い、収穫し食卓に出るなど入居者の楽しみにもなっている。職員同士が意見を出せる環境であり働きやすい環境である、また外部や内部でも研修に参加出来る機会も多くやりがいがある職場です。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「浮舟」と同じ

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所に理念を掲示している。朝の朝礼の時に声に出し読み上げている、その人らしい暮らしができるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の参加、近隣の保育園との交流、他の法人との合同消防訓練など行っている。散歩へ出た時に、近隣の方へのあいさつ。テラスから小学生などとの交流・会話を楽しんでいる。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	団地内のゴミ広い活動第2・4日曜日に天候によって行っている。地域住民が参加できる勉強会（認知症）を開催予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や地域住民の方から認知症の勉強会の開催の希望の声が上がっている、ご家族には家族会で勉強会も行ったが鳳凰槇島が主催し地域の方も参加出来る企画を考えている、地域住民と一緒に認知症の方を支えられる地域を目指している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れを行っている。運営推進会議でも宇治市から参加していただきご意見をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を鳳凰槇島で開催している。勉強会に参加後、これからの生活の見直し、より良いものにする為レポートを提出している。ほっと報告書(ヒヤリハット)の活用も行い事前に事故予防にも努めている。		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（宿木）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修への参加や、内部研修を開催し日ごろのケアの方法や、声掛け等再確認できる機会を設けている。また、キャリアパス面談で、自分の思いや考えや悩みを話せる機会も作っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修への参加、外部研修からの伝達講習など、定期的に権利擁護に関する研修に参加できる機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明し同意を得ている。家族会でも介護報酬改正についてなど説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置や満足度アンケートから改善につなげている。改善点は家族会で報告しアンケートの集計結果は閲覧できるよう玄関に設置している。面談時に、運営に関するご家族からの質問や意見があった場合は、直ちに上司への報告を行っている		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や運営会議の場で提案できる機会を設けている。個別に職員と面談し話ができる場を設けている。どの職員の改善提案書を書くことが出来る為活用している		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きがいのある職場づくりとして職員間の交流を行っている。グループホーム会議でも意見が出せる場でもある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を設けている。外部研修でも自分の興味がある研修に参加出来るよう情報提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設前には他の事業所に研修をさせていただいた。又、他の事業所を見学できるよう検討している。他事業所への見学に行く機会を作り、意見交換や質問が出来る機会を作っている		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段の会話を、SOAPの記録を用いて記録している。本人の言葉をそのまま記録に残し思いを知り、要望を職員間で共有している。本人の意向や家族の意向をできる限り実現していけるよう周知し取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	体調不良や何かあったときだけでなく、普段の面会時に、家族の顔をみたら声を掛け、近況等を伝えるようにしている。 その都度細かなことでも家族に連絡し話ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状態の変化など他の介護保険サービスの希望があれば連携させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理等は職員だけで行うのではなく、一緒に行い、自分たちの暮らしの場を一緒に造っていく。また、人生の先輩として教えを乞う時は素直に耳を傾け相手の意見を尊重している		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係間にもいろいろあり中立な立場から支援できるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご近所や昔の職場の方が定期的に顔を見に来られたり、昔から通っていた散髪屋に今も通ってもらえるように、付き添っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活を送ることは、生きてきた環境も違い、それぞれにプライドを持たれている。入居者同士が関われる環境を多く見つけ共同生活が送れるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された方は1名おられる、入所先などと連携している。申し込みされ待機者にも近況確認など現状を伝えていく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が日ごろの会話の中で得た情報を記録に残し、情報を共有し、モニタリングの中で家族の意向や思いを聞き、本人の希望や要望を取り込んでケアプランを作成し、本人の意向に沿ったケアや対応ができるように努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での生活環境が継続して行えるよう支援している。自立されていることは継続して行ってもらえるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態変化を観察し、記録に残し必要時カンファレンスを行い、適切なケアに繋がるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングにて、日々の状態を伝え、家族の思いを聞き、本人の意向や要望を取り入れプランを作成し、モニタリングに参加しない職員にも家族、本人の思いや要望を支援経過記録に細かく記録し、同じ目標をもって支援できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録は、日常生活に関すること、ケアプランに関する事で分けて記録し、またSOAP記録を用いて記録する事で、日々の記録からも問題点や様子を共有でき、かつプランの見直しが行いやすい記録をするようにしている		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（宿木）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診への付き添い時、高齢で車の運転が困難な家族に対して、自宅までの送迎を行ったり、病院へ同行し付き添いを行っている。また、看護小規模多機能の利用者との交流も行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーや行きつけの床屋・喫茶店へ行っては顔なじみの方とお話したり、宇治市サポート事業や市役所での行事に参加したり、近くの保育園の園児たちとの交流できる機会を設けている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回の訪問診療を行っている。他科受診の希望があれば受診を行い、訪問診療以外でも何かあれば相談できる体制をしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間看護職員への緊急連絡体制は整っている。また、適宜浣腸や体調不良になった際には、すぐに相談できる体制である		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の状況は随時、連絡し状態を把握するようにしている。また、退院前にはICを行い、状態に大きく変化があった場合には、今後の対応を家族や医師、担当者を交えて話し合い、その方にあった対応を検討し適切なケアが行えるよう努めている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療体制にも限界があり看取りまでのケアが現在は出来ないこと説明し入居していただいている、状態の変化などから次のステップに行けるよう話し合いをしている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの設置をしており救急救命講習を受けている。緊急時の対応についても勉強会を行っている。緊急時に適切に冷静に動けるよう、定期的に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回行っている。隣のグループホームとも協力し合同で行っている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	権利擁護の研修に参加したり、それぞれの人格や性格、認知症の症状の違いを理解し、認知症があっても、周りとの関わり方を考えその人を尊重し、今できることを見つけていけるよう努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で、その人の思いや希望を理解し、一緒に取り組んで行ける支援を考え、目標設定し希望に添えるよう取り組んでいる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々にあわせた起床時間や、食事の好み等できる限りの対応と、買い物などの希望を聞き、付き添い等を行っている。入浴も一応決まった曜日は設定しているが、気分によっては日にちを変えたりしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で朝着る服を選んだり、好きなときに散髪に付き添ったり、靴下や服を買いに行くなどの支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものを聞き、行事に取り入れて、一緒に調理を行ったり、食材をカットしたり、味見をしてもらったり、買い物で好きなものを購入している。後片付けも、できる範囲で一緒に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は毎日記録に残し、食事や水分摂取の低下が見られたり、体調等を考慮して、補食等を提供している。糖尿病の方にも、過度な摂取にならないよう量の管理は行っているが、おやつなどの購入は一緒に買い物に行っている		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（宿木）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自分でできる方は、今まで行っていた方法で行ってもらい、できなくなった方には、介助を行っている。一度は自分でしてもらい、適宜介助も行う方もある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表から、個々の排泄パターンを知り、その方にあつた時間で誘導を行えるように努めている。また、自分でトイレに行くが、失敗のある方には、自尊心を傷つけないよう配慮し、交換し清潔保持に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操への参加と、水分を多く摂取できるように、お茶タイムや季節に適した飲み物や、本人の好みに合わせた飲み物を提供している。過度な便秘の方には、下剤にてコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	入浴日は決まっているが、本人が望まない日や、午後からしか入りたくない方には午後に、午後からは買い物に行きたいと思う方には午前中に入浴してもらっている。入浴が好きな方に、誕生日プレゼントで入浴剤などを差し上げている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分で、寝たり起きたり自由に出来る方は、本人に任せている。自己で動けない方には、日中確認し、臥床時間を設けたり、夜間は好きな時間に教室に戻ってもらっている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	排便、皮膚状態、食事摂取量、体調や行動の変化など、往診時に医師に報告し、排便などのコントロールを行えるようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々にあつた趣味や特技で植物の世話や、阪神ファンの方への会話や清拭たたみを自分の仕事として、毎日進んで行ってくれていることなどがある		

京都府 グループホーム鳳凰槇島（宿木）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて買い物や、地域の情報を収集し利用できそうな行事に参加したり、季節にあったレクでの外出が行えるように企画している。また、家族と食事や散歩などにも行っている		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いを使ったり介護者が支払いを行うのではなく、ご自身で支払いや残金の確認をしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族に電話を掛けたい時には意向に沿っている。 お正月には年賀状を書いていただきご家族に新年の挨拶をしていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合った植物を植え一緒に育てている。季節感が感じられる装飾も行っている。テラスにテーブルを設置し天気の良い日などは日向ぼっこもしている。共同生活場には金魚も飼っており楽しみの一つでもある。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自室で過ごされたりフロアでは自分の気に入った場所でテレビを見たり、食事をする際は紀の会の方同士お話ししながら食事を行っている。確実に席が決まってることはなく、誰でも好きな場所にすわることができる		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前使われていた家具やテレビ、写真や、コップ、DVDデッキなどを持ってきていただき、自分の空間になるよう工夫している。好きなテレビや好きな歌を聴きながら過ごしている方もいる		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな重たい椅子を置くことで一人で、洗面ができ、また、ナースコールが届かない場所であれば、自分で持ってきた笛を吹いて知らせてくれる。トイレの場所を解りやすく表示し、自力でトイレに行ける様に努めている		